

## 札幌のシンボルタワーだった

# 消防署の望楼

昭和二十年十月に大通西一丁目に建てられた望楼は、高さ四三・三三層の巨大なもので、当時は東洋一といわれていました。

現在のように、周りにテレビ塔などの高い建物が無い時代でしたから、空高くそびえ立つ「大望楼」は市民を驚かすとともに、都心部のシンボルタワーとしてそびえ立ちました。この大望楼、当初はもつと高くする計画もあったようで、「札幌消防百年の歩み」(昭和四十六年三月・札幌消防沿革誌編さん委員会編)の中に、こんな記述があります。「当初の計画では、大通西二丁目に建設予定で、望楼の高さを五十層以上として全市を一望できるものとし、望楼の外側にらせん型はしごをつけて市民の消防見学の便を図り、車庫も講堂付設の大きいものとした。しかし、丸井今井百貨店、北海タイムスの四階建てを除いて構想建築物の無かった札幌であったので、消防組員中にも『目まいがする。心臓マヒを起こす』と反対する者があつたり、大通西二にあつた札幌電話

局(札幌郵便局の二階)からは『消防本部が向かい側ではサイレンが電話交換の支障となる』との猛反対などのため変更した、というのが真相らしい」(札幌消防回顧座談会記録)。この望楼は、昭和四十年にその役目を終え、取り壊されました。

(平成六年六月号・第十二回)



消防訓練中の望楼(昭和29年)  
-札幌市写真ライブラリー所蔵-